



参観日等お世話になりました

昨日の参観日、学年部会、PTA総会と、長時間にわたり、大変お疲れ様でした。コロナ禍がゆっくりと解消され、学校行事にも少しずつ活気が戻ってきました。本部役員さんをはじめ、様々な専門委員会では、会合などで学校にお集まりいただく機会も増えてくると思いますが、どうぞ宜しくお願いいたします。



伝統的な横断時のお辞儀

私は毎朝、学校前の横断歩道で立哨しながら、子供達の通学の様子を見ていますが、横断歩道を渡った後にドライバーに「止まってくれてありがとう」のお辞儀をする伝統は、あの場所に押しボタンの信号機ができた50年前くらいにはじまったものです。半世紀もの間、良き先輩の姿を見ている後輩達が、まねをしてお辞儀をしているという姿は、大変すばらしいと思います。



昼間小の卒業生で、中学生になっても町内の至る所で道路を横断する際、お辞儀をしている姿をよく見ます。まさに、体に染みついた良い習慣なんだと感じています。

JAFの調べでは、信号機のない横断歩道で車が止まってくれる率が一番高いのは長野県で、なんとその停車率は70%だそうです。全国では30%くらいということですから、驚異の数字です。そしてその理由が、「停車してくれた車にお辞儀をしているから」ということらしいです。

特に朝のせわしい時間帯に、ドライバーに良い気分で運転を続けてもらう為にも子供達のこの習慣は続けていきたいものですね。先日の徳島新聞でも美馬市の子供達のお辞儀の話が出ていました。美馬市では停車率がなんと90%ということで、すごいなと思いました。

非認知能力を育む

昨日のPTA総会の際、私からの挨拶では、「**非認知能力**」についてのお話をさせていただきました。かいつまんでいうと、学力には、**見える学力と見えない学力**があるということです。例えば、計算が速いとか漢字をよく覚えているといったものは、「測ることのできる学力」です。その他に、**物事に取り組む姿勢や、コミュニケーション力、感情のコントロールなど、主に社会や集団の中で育つ力などの「測ることのできない学力」という、2つの学力があるというものです。**



これら非認知能力は、幼児期から学童期にかけて育ちやすく、まさに小学校時代は、それらの力を伸ばす絶好のチャンスでもあります。そして、それらはやはり、遊びの中で育っていきます。

運動場でのできごと

昼間小の運動場は昔からあの狭さですが、その狭い空間を目一杯使い、子供達はしっかり遊んでいます。そして、上学年子供達が、下学年の子供達の世話をよくしています。先日も、休み時間に、6年生の子が、1年生に「何して遊ぶ？」と、本当に自然な形で問いかけていました。なんと微笑ましいことでしょう。**6年生も、1年生もステキな笑顔でした。**まさに非認知能力が態度や会話に出た瞬間だと感じました。



さて、明日からの連休では、ぜひお子様の非認知能力を発見する機会として、有意義にお過ごしください。